

【現代社会・家庭基礎 1 学年】

実施日：令和2年9月24日(木)第4限

単 元 (教 材) 名
家庭基礎：これからの消費生活と環境 現代社会：豊かな生活の実現

【この単元のねらい・目標】

現代の社会には「消費者問題」や「労働問題」、「格差問題」など様々な社会問題が存在しており、相互に関連しあっていることを理解させる。社会問題の改善や解決に向けて、資料やデータを読み取り、現状を把握し、多面的・多角的な視点を持って考察・判断・表現する力を育成する。更に、社会の形成者として、豊かな社会を実現するために、自らの行動から社会問題の解決に向かおうとする自覚と実践力を身につけさせる。

【本時のねらい・目標】

コロナ禍の現状から、これまでの自分自身の生活様式を見直し、SDGsの実現に向けた取り組みについて考察し、表現できる。その過程において、これまでの公民科と家庭科の学びを活用し、社会問題の解決の糸口が自分たちの行動にあることを認識する。

【この教材で特に意識する「科学的思考力(SW-ing SLC)」】

項 目	内 容
B 課題理解・発見力 E 考察・統合力	ii：設定された課題の条件を的確に把握できる。 i：これまでの経験や学習によって得た知識や情報を統合して推測したり、課題について自分の意見や考察を論理的に組み立てたりすることができる。

【ICT 機器の使用場面とその目的】

プロジェクター・生徒用iPadの活用(①目的②場面③方法)

- ① 考えをまとめる力を育成させるとともに、視覚からの理解を深めさせるため
- ② グループワークの内容の発表(展開)
- ③ 発表の流れや内容の組立方のテンプレートを事前に提供し、それをもとに生徒が作成したスライドを提示する。

【教材開発において特に意識したこと・工夫】

- ・実際の社会で起こっている問題を取り上げて教材化することで、各教科での学びが自身の生活に直結するものであることを実感し理解できるように意識した。
- ・「消費者問題」や「ジェンダー」、「労働問題」など、家庭科と公民科の両教科からのアプローチをすることにより、それぞれの教科の視点における見方・考え方を認識できるよう工夫した。

【全体の指導計画(全4時間)】

- 第1時 SDGsについて
第2時 日本や世界各国の取り組み、様々な企業や自治体の取り組みについて
第3時 「新しい生活様式」でのSDGs達成に向けた取り組みを考える。(1/2)
第4時 「新しい生活様式」でのSDGs達成に向けた取り組みを考える。(2/2)・・・【本時】

【第4時の授業展開】

時間	内 容
導入 5分	前時の学習の振り返り，本時の目標，活動の確認
展開① 5分	グループで考えをまとめ，発表の準備をする。 → 自分たちのアイデアがSDGsのどの目標の実現につながるか，また，複数の目標がどうつながっていくかを考察させる。
展開② 30分	各グループでそれぞれのテーマに沿った発表を行う。公民科・家庭科それぞれの見方・考え方を通して思考を深める。発表の際は，自分たちの班がどのような立場や視点に立って判断したかについても示させる。 (テーマ：教育，食，環境・資源，衛生・福祉，住，労働 など) → 様々な視点からの発表を聞くことで，社会問題がつながりあっていることに気づき，身近な行動の一つひとつが課題解決につながることを知る。 *発表の際にはホワイトボードを活用し，SDGsのどの目標の達成につながる行動であるかが視覚的にわかりやすいようにするために，マグネットシートを貼る。また，飛沫飛散防止のためにビニールカーテンを活用する。
まとめ 10分	実社会の問題点や課題に気づき，解決策を考えるきっかけが学校での学びにあることに気づく。そのために，公民科では「貧困問題を解決するためにどのような国際貢献ができるのか」や「よりよい労働環境を確保するためにどのような法律や権利があるのか」などについて，家庭科では「快適な住環境とはどのようなものか」や「日々の食生活の改善が健康問題や世界の食料問題について考えることにつながる」などを学ぶことが重要であることを理解し，その学びを結び付けて活用することの重要性に気づく。 今日の授業について振り返り，自己評価を行う。

【使用プリント等】

- ・ワークシート（授業者作成）
- ・SDGsに関する資料を集めたプリント（授業者作成及び生徒収集）
- ・電子黒板に投影するスライド（授業者及び生徒作成）

【評価について】

- 評価A：新型コロナウイルス感染症が現代社会にもたらした影響や変化を考察し，自分たちが日常生活からどう行動していくべきかを，学習内容をふまえてSDGsの視点から考察し，表現できる。
- 評価B：自分たちが日常生活からどう行動していくべきかを，学習内容をふまえてSDGsの視点から考察し，表現できる。
- 評価C：自分たちが日常生活からどう行動していくべきかについて，学習内容をふまえての考察が不十分である。

評価Cの生徒に対する手立て

コロナ禍における社会の変化や影響を整理させ，自らの行動や生活様式を見直し，SDGsの視点に着目させながら改善点を考察させることで，身近な生活のあり方が社会問題解決に向けた出発点となり，学習内容が生活と直結していくことを理解させる。